

海外安全対策情報（平成29年度第3四半期）

1 アグン山の警戒情報

11月21日にバリ島アグン山で噴火が発生して以降、小規模な噴火が繰り返し発生しており、山頂から半径8km（北～北東、南東～南～南西部では10km）圏内は立入禁止とされています。噴火の発生以降、インドネシア当局は、警戒レベルをレベル4（危険）としていますので、引き続き関連最新情報の入手に努め安全に十分注意してください。

2 社会・治安情勢

（1）テロ関連動向（インドネシア国内情勢）

インドネシア警察は、西ヌサトゥンガラ州ビマほか国内各地においてテロ容疑者を逮捕・射殺するなどテロの疑いのある動きに対して厳重な警戒態勢を敷いていますが、11月中旬には西スマトラ州で警察署が襲撃・放火される事件が発生するなど、依然としてテロの疑いのある活動が展開されています。テロはどこでも発生する可能性があります。引き続き、最新の治安情勢等の関連情報を入手し、日頃から危機管理意識を高く持つよう努め、テロの標的となりやすい場所（政府・警察関係施設、宗教関連施設、ナイトクラブなど多くの欧米人が集まる場所、ショッピングモール等不特定多数が集まる場所等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払ってください。

（2）大雨・強風・高波の警報

天候不順により当地気象庁から大雨・強風・高波の警報が発出されています。海や山でのレジャーの際には天候の急変等に十分注意するとともに、市街地・山間部においては、倒木・土砂崩れ・洪水などの危険がありますので気を付けて下さい。

（3）デング熱

バリ島内ではデング熱が依然流行しており、引き続き注意が必要です。デング熱には予防接種も予防薬もなく、蚊に刺されないようにすることが最善の予防方法ですので、防蚊対策を徹底し感染の予防に努めてください。なお、仮にデング熱が疑われる症状が発生した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けるようにしてください。

（4）麻薬・薬物への注意

警察は、引き続き薬物犯罪の摘発を強化しています。バリにおいてもナイトクラブに対する強制捜査が実施され薬物所持者が検挙される等警察は薬物犯罪の摘発を推進しています。薬物には絶対に関与しないようにして下さい。また、薬物が使用されているような危険な場所には近寄らないようにして下さい。

3 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪傾向

○ 観光客が多く集まるクタ・レギャン地区を中心に、外国人旅行者を狙った「ひったくり」「集団スリ」といった盗難被害が引き続き発生しています。特に、深夜・早朝時間帯には、レギャン通り（爆弾テロ追悼モニュメント近く）のナイトクラブからホテルへ帰る旅行者（グループ、カップル、男女を問わず）が、徒歩で通行中にひったくりの被害に遭ったり、集団の犯人に取り囲まれて話をしている隙にスリの被害に遭うケースが継続して発生しています。

また、上記エリア以外でもバイク使用の犯人によるひったくりが頻発していますので、このような被害に遭わないためにも、所持品の管理に注意し、徒歩での移動の場合には周囲の状況に十分警戒してください。

○ 今四半期にはスキミング被害が複数発生しました。ATMは銀行店舗内や警備員の常駐している等安全性の高いATMを利用するようにしてください。特に最近、国際キャッシュカードが被害に遭うケースが多く報告されています。日本国内の銀行口座から現金を引き出す場合、その取引を事後確認するには往々にして時間がかかり、被害を気づきにくいという点があげられます。利用明細を頻繁に確認するとともに、口座内の金額を少なくしておく等の予防策もご検討ください。

(2) 邦人被害事案

邦人に対する一般犯罪の事例については、月ごとに安全対策情報として総領事館ホームページに掲載しています。

4 テロ・爆弾事件発生状況

当館館内においてテロ・爆弾事件は発生していません。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の誘拐・脅迫事件は発生していません。

6 対日感情

対日感情は基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

7 日本企業の安全に関わる諸問題

日系企業の安全に関わる問題は認知していません。

以上